



岡本真利子
議員
(政風クラブ)

問 近年増え続けている道路施設の維持管理をいかに効率的、経済的に行い道路施設の長寿命化を図るかが、国だけではなく、自治体においても大きな課題になっている。

そこで道路維持管理計画を策定することによって、予防保全に努めることができ、コストを低減し維持費を抑えることにもなる。

これまでは壊れてから補修といった事後保全型の維持管理でしたが今後は大規模で高額な補修が必要になる前に予防保全型の維持管理が必要と考える。

さらに道路の全体を詳細に把握することにより、新たな管理手法を見つけ出すことも可能である。

(1)本町の道路維持管理計画は策定されているのか。計画を策定することによってコスト縮減の経済効果は。

(2)本町の道路整備の現状を認識しどのように取り組まれているのか。

(3)町道の舗装率、また、老朽化した路線の維持補修を必要とする路

問 道路維持管理計画について

答 費用対効果の高い維持管理を行うことが極めて重要と認識している

線の把握については。

町長 (1)平成21年度に全ての町道を未改良道路、一部未改良道路、整備済道路に区分けを行い、幹線道路を結んでいるかどうか、公共交通路線であるか、またその交通量などの道路の利用状況に加えて、舗装路面の摩耗などの路面状態を評価し、道路整備計画を策定している。これをもとに、総合計画3カ年実施計画策定時に、緊急性や投資効果、地域バランスなどを考慮して、整備年次の位置づけをしている。

道路については本数も多く、職員が見た目の判断になることから、縮減効果がどうかというの把握はしていない。

(2)舗装道路については、平成25年度に「路面性状調査」を実施し、幹線13路線、延長約41キロメートルにわたり「わだち掘れ」や「ひび割れ率」などを測定した。

この結果、補修修繕の前提となる縦断凹凸が、車両の損傷につな

がりがねないレベルの1メートル当たり8ミリメートルを超える箇所が部分的にあったことから、3カ年実施計画に位置づけてオーバーレイ（道路表面のみの舗装修繕のこと）などの補修整備を進めていきたいと考えている。

また、細かな道路補修や舗装補修については、平時の道路パトロールなどにより状態を把握し、随時、適切に対応している。

(3)町道の路線数、舗装率については、本年3月末現在においては、町道1014路線の実延長は約882キロメートルで、そのうち舗装済延長は約531キロメートルで舗装率は60・2%となっている。

市街地の舗装率については、幕別市街で95・5%、札内市街で96・3%、忠類市街で97・2%となっており、数%まだ残っている状況ではあるが、長期的には道路整備としては100%に向かって整備をしていきたいという考え方を持っている。

再質問 道路のパトロールだが、車の中からの目視では、損傷した箇所を発見することは難しいところもある。パトロールとはいえないのではないか。様々なパトロール手法で道路の現状を早急に把握するべきである。

答 定期の道路パトロールについて、幕別地域は5コースに分けて月曜日から金曜日まで、忠類地域は木曜日と金曜日でそれぞれ行っている。
職員からの報告や郵便局などとの連携による方法について検討する。



本年6月、穴の開いた道道栄橋の様子